2016/07/31

特定非営利活動法人 女性技術士の会

ニュースレター vol.28

本ニュースレターは、特定非営利活動法人女性技術士の会会員のみなさまへ、本法人の活動内容を中心にお知らせいたします。第 28 号では、2016 年 4 月～2016 年 7 月の活動報告、リレーエッセイ、運営報告、今後の活動予定などをお届けします。今回も楽しい記事が満載ですので、どうぞお楽しみください。

なお、ニュースレターではみなさまからの投稿記事を募集しますので、仕事のこと、趣味のことなど、お気軽に投稿してください。詳細は巻末のアドレスまでお問い合わせください。

CONTENTS

会からのお知らせ		2 ページ
■ 2016/05/21	地域交流部の発足	2 ページ
活動報告		2 ページ
■ 2016/04/09	第 5 回Q例会 「病気自慢！～病気は人生の転機？～」	2 ページ
■ 2016/05/21	第 9 回通常総会・講演会・懇親会	3 ページ
■ 2016/07/23	見学会(JAXA ジオスペース探査衛星見学)	3 ページ
会員からの発信		4 ページ
■ 坂井美穂さん	「実験教室をはじめます」	4 ページ
リレーエッセイ		5 ページ
■ 木村弘子さん	「NHK 朝ドラ 『あさが来た』 を見て、一念発起」	5 ページ
会員の受賞		6 ページ
■ 2016/06/16	(公社)日本技術士会 平成 28 年度会長表彰受章	6 ページ
運営報告		6 ページ
今後の活動予定		6 ページ
■ 2016/08/07	女子中高生夏の学校 2016 ～科学・技術・人との出会い～	6 ページ
■ 2016/08/18-19	APNN 国際会議 in ニュージーランド	7 ページ
■ 2016/10/02	第 10 回日韓女性技術士交流会	7 ページ
■ 2016/11	シンポジウム「女性技術者とワークライフバランス～仕事と介護編～」	7 ページ
技術士を目指して		8 ページ
■ 大矢知真貴さん	「人をつなげる緑の力」	8 ページ

会からのお知らせ

■ 地域交流部の発足

◆ 木村理事長の挨拶

新年度の挨拶等で既にご存知の方も多いかと思いますが、今年度から「地域交流部」が発足しました。

本法人発足以来、首都圏外に在住の会員の皆様から「活動したくとも遠方でなかなか参加できない。」、「会員の顔も名前も分からず疎外感がある」等のご意見を頂いており、今回「地域交流部」の立ち上げに踏切った次第です。

具体的には遠方でも協力できる活動（例：新聞・雑誌の原稿依頼、講演会・見学会の地方開催、国際会議の参加依頼等）を中心に首都圏外にお住いの会員の皆様にご協力いただこうと言うものです。

「地域交流部」の取り纏め役は岡山在住の磯打理事が担当いたします。

「地域交流部」のメンバーは原則遠方にお住まいの会員で構成しておりますが、全会員一丸となりこれまで以上に有意義な活動を行いたいと思います。

どうかご協力のほどよろしくお願いいたします。

◆ 磯打地域交流部担当理事の挨拶

首都圏から離れた地域にお住いのみなさんは、常に地域と密接に連携した活動をされていると思います。そのような会員のみなさんの活動を会としてサポートできればと期待しております。

また、首都圏で行うシンポジウム等の会のイベントには、なかなか遠方から参加しづらいといったこともあると思いますので、スカイプ等 ICT を活用した情報発信をあわせて進めていきたいと考えております。

もちろん、首都圏以外でのイベント開催等で会員のみなさんと顔をあわせる機会もつくりたいと思っております。

こんな活動がしたい！っ 等のアイデアがございましたら、ぜひともお寄せいただけましたら幸いです。

どうぞよろしくお願いいたします。

活動報告

■ 第５回Q例会 「病気自慢！～病気は人生の転機？～」

◆ 日　時：2016 年４月９日(土) 13:00～15:00

◆ 場　所：四谷地域センター

◆ 活動形態：会員の自主活動

◆ 参加者：講師１名、会員５名、一般参加者２名

◆ 概　要：Q例会は、Quarter(３ヶ月)に１度程度開催する、会員の話を気軽に聞く会である。今回は、「病気自慢！～病気は人生の転機？～」と題し、本法人の監事である関矢英士さんが講演した。関矢さんは最近、病気の発覚～治療～退院という一連の闘病生活を経て見事に克服し、元気に復活された。病気の経緯や、技術者らしく分析したこと、心境の変化、元気でいられるコツなど、参加者の聞きたいことにスポットをあて、質問に答える形で話してもらった。関矢さんは、入院中も子供の科学教室のための工作で忙しかったそうだ。

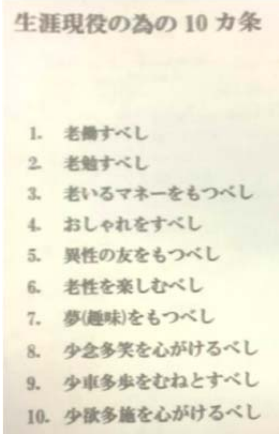
講師の関矢監事
机上は入院中に作った理科工作

ヘルプマーク

また、例えば、東京都の赤い「ヘルプマーク」は、がん治療患者のように一見してわからない場合でも「支援や配慮を必要としている」ことを示しているので、電車などで見かけたら席を譲るなど、配慮をしようという話がでた。その他、参加者同士の病気自慢・健康法などを話し合う時間を持った。

■ 第 9 回通常総会・講演会・懇親会

- 日　時：2016 年 5 月 21 日(土) 14:00～14:45
- 場　所：アカデミー茗台
- 参加者：会員 19 名
- 総会概要：総会は、正会員 70 名のうち出席 19 名、委任状 31 名、合計 50 名となり、正会員の 1/2(35 名)以上に達したことから総会は成立した。以下の議案が原案通り承認された。
  - ・第 1 号議案：2015 年度事業報告および収支決算に関する件
  - ・第 2 号議案：2016 年度事業計画および収支予算に関する件
  - ・監査報告
  - ・その他報告：新任理事の紹介、地域交流部会の設立
- 講演会：「健康に老いる」と題して、薬学博士の大倉多美子氏に、ご自身の経歴や健康的に年を重ねるためのハウツーについて、漢方の専門家の観点から講演をしていただいた。
- 懇親会：「涵徳亭美都屋」に移動し、講師を含め 22 名が参加した。新入会員 2 名の自己紹介から始まり、楽しく歓談し会員同士の交流が行われた。



■ 見学会(JAXA ジオスペース探査衛星見学)

- 日　時：2016 年 7 月 23 日　13:00～16:00
- 場　所：JAXA(宇宙航空研究開発機構)相模原キャンパス
- 活動形態：主催
- 参加者：会員 9 名、会員家族 3 名、会員外 11 名、合計 23 名
- 講　師：大島武氏(NEC はやぶさ 2・あかつき・ERG プロジェクトマネージャー、技術士(航空・宇宙部門))
- 概　要：本法人会員で JAXA 勤務の仁田さんの説明で、JAXA 紹介ビデオを視聴し、ジオスペース探査衛星(ERG)の説明を受けた。ここ相模原キャンパスは JAXA の数ある施設の中でも宇宙科学・教育の拠点で、現在、今年度内に内之浦宇宙空間観測から打ち上げられる予定の ERG が組み立てられている。地球周辺の宇宙空間にあるヴァン・アレン帯(放射線帯)には、高エネルギー電子が大量に存在しており、そこの電場磁場を観測するために開発されたのが ERG だとのこと。現

在はセンサーの設置されるミッション部とソーラーパネルの設置されるバス部が別々になっており、これから連結されてひとつの衛星になり、宇宙空間では 1 分間に 7.5 回、回転して様々な観測をするそうである。

見学の後の講演会では、NEC プロジェクトマネージャーで航空・宇宙部門の技術士でもある大島武氏から、はやぶさ 2、あかつき、ERG など衛星に搭載されている技術について話があった。探査機開発に必要な数多くの技術分野をそれぞれのエンジニアがまとめ、全体をプロジェクトマネージャーが統括しているそうである。質問タイムには、ターゲットマーカーの数や、バス部とミッション部の接続方法、QCD（クオリティ・コスト・デリバリー）、プロジェクトマネージャーになるまでの過程などについての質問があった。見学会では、参加者は展示室に設置されている衛星の模型や展示に見入り、大島氏に熱心に質問していた。

会員からの発信

■ 坂井美穂さん（生物工学部門）　「実験教室をはじめます」

大分に来て、気がつけば干支二順目。実に、人生の 4 分の 1 くらいは大分にいることになります。21 年前、バイオの研究者になる夢をあきらめきれずに、就職氷河期にようやく決まった会社を 1 年で辞し、大学院博士課程へ再入学。博士課程は卒業したものの、就職が決まらず、オーバードクター。そして、ようやく現在の職場(大分の私立大学)で定職を得ることができたのが 14 年前。この 14 年間で夢はかなったのか、というと、どうも、違う流れにのってしまったようです。

気がつけば、情報系の学科で自分の専門とは違うものを大学生に教える身となっています。ときどき(最初は頻繁に)、「どこで、どう間違った流れにのってしまったのか、どうしたら修正できるのか」苦悶する時もありました。そして、月日の流れとともにバイオ研究者の夢は潰え、違う流れの中で新たな夢が出てきました。

その夢とは、こども達に「理科の楽しさ、考えることの楽しさ」を教えることです。現職場に着任してすぐの夏、年 1 回、夏休みに開催される「夏休みこどもサイエンス教室」に講師として参加したのがきっかけです。当初はどう教えていいか、何をすればいいかもわからず、こども達に伝わるか不安のまま「野菜や果物から DNA を取り出してみてみよう」という実験を行いました。その時のこども達の歓声や、帰りがけに「面白かった。家でもやってみる」という声が忘れられず、十年一日のごとく、夏の恒例行事になっています。

「自分自身がバイオの研究者になる流れからは外れてしまったけれど、理科好きのこどもを一人でも多く育てることができたら」と思えるようになったのは、この夏の恒例行事のおかげです。そして、できることなら夏 1 回の恒例行事だけで終わらず、毎月、小規模でも実験教室がしたい、と夢想し始めたのは研究者になる夢を諦めた頃。

小 6 の息子には、いまだに手を焼き(保育で手を焼く期間が終わったと思ったら、教育で手を焼く時期が来てしまったのです)、「仕事も家庭も両立を」なんて、バランス感覚のない私にはなかなか難しい現実。「輝く女性」になるために「ワークライフバランス」の実現など、どこか異国の言葉のように響く日々。それでも「こども達を集めて実験教室を開く」という夢を叶え、「輝く女性」になるとしても定年退官した後だろうなと考えていました。

実験教室にて

しかし、「実験教室がしたい」という思いは日々熱を帯び、こどもや知人に話してみると、反対されるより、背中を押してくれる声が多く、試しにと今年 3 月、近くの公民館を借りて「実験教室」を開催しました。参加してくれる子がいないなら、息子と二人で実験しようというつもりで。

そんな風に肩の力を抜いた途端、実験教室という歯車が一気に動き出し、月 1 で開催することになりました。何よりも諦めたつもりでいた「研究者」という呪縛からも離れることができ、次の夢に向かって一歩にも満たないけれど、進むことができました。

これからは、少しずつ私自身の実験のレパートリーを増やしながら、こども達の「楽しい。まだやりたい。なぜこうなるの？」という声を糧に、どんどん大きく夢を膨らませていきたいと考えています。

リレーエッセイ

■ 木村弘子さん（上下水道部門）　「NHK 朝ドラ 『あさが来た』 を見て、一念発起」

先日終了した NHK の朝ドラ「あさが来た」を毎回楽しみに見ていました。いつもは朝の一番忙しい時間での放送ですから、見た事はありませんでした。今回は、日本女子大学の創立に尽力された広岡浅子女史の物語でしたので、どんな話の展開になるのかを期待をして見ていました。

まずびっくりしたのが、目白の本校の土地は、広岡浅子女史の実家の三井家からの寄付であったということでした。卒業生である私達も知らない事でした。

4 月 2 日を最後に、放送は高視聴率で終了いたしました。この放送を見て、いろいろな事を進めて行くには、直接行動を起こす事が必要と実感して、早速それを形にいたしました。

私は、日本女子大学の児童学科を卒業して、下水道を専門に取り扱う建設コンサルタントを設立しましたので、ユニークな経歴を評価していただき卒業生の中から百人を選んだ「櫻楓の百人」に掲載されました。この掲載は、100 周年を記念しての特集になっていますので、今から 20 年近く前の事になります。その頃は、下水道事業もピークの時期で、各地の自治体が新規の下水道事業を進めている時代でした。残念な事に、現在は事業仕分けで「下水道事業は金喰い事業、小型合併浄化槽が効率的」と決め付けられて、新規の下水道に着手する自治体が少なくなってしまいました。

「下水道はどこでも必要な事業」という事を、新聞やテレビで取り上げていただけるように、早速、マスコミ関係に手紙を出しました。

下水道事業は、国からの補助金と起債を充当できる公共事業ですが、1 億円の事業に対して単費として 600 万円位が必要になります。供用開始後、下水道料金の徴収で維持管理を行い残った金額を起債の償還に充当できれば、財政が厳しい自治体でも下水道事業を実施する事ができます。

送った資料がどこまで掲載されるような機会を得られるかは定かではありませんが、行動を起こさなければ、下水道は停滞したままの状況になってしまいます。「下水道を元気にしたい」という思いは通じるのでしょうか？

もう一つの行動が「積極的にいろいろな方々と情報交換をして、人脈を広げる事」というテーマです。新年早々、日本女子大学の浦和支部の新年会に出席いたしました。その席上で、「JICA の仕事をしています」というコンサルタントの社長の方と様々な情報交換ができました。

平成 24 年度に中小企業を対象とした外務省の「途上国政府への普及事業」にブータンを対象とした企画書を提出し、それが採択され、最終報告書の提出をいたしました。次の段階は JICA の「普及・実証事業」で、この方のご主人にチーフアドバイザーを引き受けていただけるようになり、4 月 11 日に「普及・実証事業」の締め切りに企画書を提出する事ができました。

6 月 30 日に、採択という朗報が届きました。ブータンに小規模下水道のモデル施設を設置する事ができますので、これからの海外への普及が進めやすくなると思っています。

「人脈の拡大」は直接顔を合わせて、情報交換をする事が必要です。女性技術士の会の新年会や総会は、それができる機会で、毎回楽しみに参加しています。

直接仕事に繋がることばかりではありませんが、余暇を楽しむためにも、人との繋がりが重要と感じています。

若い方々との情報交換がこれからは必要になります。

これからもよろしくお願いいたします。

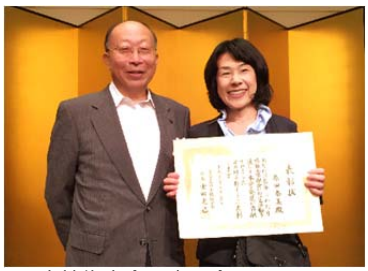
信号の無い幸せの国　ブータン

会員の受賞

■ (公社)日本技術士会 平成 28 年度会長表彰受章

◆ 日　時：2016 年 6 月 16 日(木)

◆ 内　容：会員の原田奈美さんが、(公社)日本技術士会第 58 回定時総会にて、会長表彰を受賞された。おめでとうございます！ 今年度は各地域本部や部会の推薦など、計 80 名の方々が表彰された。女性技術士の受賞者は 2 名だった。



日本技術士会の吉田会長と原田さん

運営報告

主　体	日　時	議　題
理　事　会	5 月 21 日(土) 10:30～12:30	総会準備の確認と必要届出書の確認、各部会活動報告、 地域交流部の始動について、部員の活動協力について、他
事　務　局	–	入退会管理、資金管理、Web 確認　等
企　画　部	5 月 6 日(金) 18:00～20:00	見学会・シンポジウムについて
広　報　部	6 月 22 日(水) 18:30～21:00	理事会協議内容の伝達、ニュースレター(Vol.28、Vol.29)について、 「リレーエッセイ」に代わる企画について、冊子改訂について、他
国　際　部	7 月 26 日(火) 18:30～20:30	APNN プロジェクト会議(JNWES 理事会兼) その他 APNN in NZ,2016 発表資料作成、APNN in Yokohama,2017 準備、 及びスポンサー・協力団体との交渉
地域交流部	–	5 月 21 日付け新規発足。部内メーリングリストの整備、ニーズ調査アンケートを経て、今後の活動計画を検討

今後の活動予定

■ 女子中高生夏の学校 2016　～科学・技術・人との出会い～

◆ 日　　時：2016 年 8 月 7 日(日) 13:00～15:50(ポスター展示の時間)

◆ 場　　所：(独)国立女性教育会館　埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地

◆ 参加形態：協賛

◆ 対　　象：科学・技術の分野に興味・関心のある女子中高生および保護者・教員

- 概　要：本イベントは、(独)国立女性教育会館(NWEC)が、国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)の「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の委託を受けて毎年実施している２泊３日の合宿研修で、そのうち一日、本法人も協賛参加し、ブースを設け、ポスター展示・理系の職域紹介およびキャリア相談等を行っている。2014 年度より、本法人で制作した冊子「理系の仕事って？」を配布して、大学の学部選択とその後の職業との関連について、分かりやすく説明している。
  今年度より日程変更となり、ポスター展示は日曜日(これまでは金曜日)となるので、ブースでの説明要員として、多くの会員の参加を期待しています。

■ APNN[1] 国際会議 in ニュージーランド
- 日　時：2016 年 8 月 18(木)～19 日(金)
- 場　所：ニュージーランド ウエリントン
- 対　象：INWES[2]の APPN の加盟団体員および技術系・科学系で学び働く女性たち
- 目　的：アジアンパシフィック圏内の技術・科学分野の情報交換および今後の展望に関する会議
- 概　要：昨年の APNN in ウランバートルに引き続き、日本が議長国での開催で、アジアンパシフィック圏内から科学技術部門で活躍する女性たちが集合する。会議 1 日目は毎年恒例のカントリーレポートによる各国の現状に関する話し合い、2 日目はサミットミーティングを行う。1 日目のカントリーレポートの発表者には本法人から交通費補助が支給される。本法人の会員はどなたでも参加でき、夏休みを利用できる日程なので、是非、国際会議に参加してください。
  申し込み・詳細は、国際部の木村了 r-kimura@sakae-sekkei.co.jp まで。
- 費　用：18 日・本法人会員の参加は無料、19 日・有料
- 発表者：沼澤朋子さん(技術士 経営工学部門)が、日本代表としてカントリーレポートの発表を行う。

■ 第 10 回日韓女性技術士交流会
- 日　時：2016 年 10 月 2 日(日) 15:00～20:00
- 場　所：きぬ川ホテル三日月　栃木県日光市鬼怒川温泉大原 1400
- 対　象：女性技術士、技術士を目指す技術者・学生
- 目　的：日韓両国の女性技術士の情報交換・スキル向上・親睦
- 概　要：シンポジウム、文化交流(温泉体験)、懇親会
- 費　用：シンポジウムの参加費は無料、懇親会の参加費は 5,000 円。当日、きぬ川ホテル三日月に宿泊する場合は、1 泊 2 食付きなので懇親会費用は無料。
- 発表者：日本側は井本郁子さん(技術士 建設部門・環境部門・総合技術監理部門)。都市緑地と生物多様性に関する話題で発表する予定である。地元栃木県内からも多数の女性技術士・技術士を目指す技術者が参加予定。
  申し込み・詳細は、日本技術士会の下記 Web サイトを参照。
  https://www.engineer.or.jp/c_topics/004/004497.html

■ シンポジウム「女性技術者とワークライフバランス～仕事と介護編～」
- 日　時：2016 年 11 月中旬 予定
- 場　所：慶応大学三田校舎 社中交歓 萬來舎 予定

---

[1] APPN：Asian Pacific Nations Network、INWES におけるアジアンパシフィック地域のネットワーク

[2] INWES：International Network of Women Engineers & Scientist

◆ 概　要：昨年開催の同シンポジウム「～現状と課題編～」に続く第 2 弾。昨年好評だったランチミーティング形式で行う予定。

技術士を目指して

■ 大矢知真貴さん（造園職）　「人をつなげる緑の力」

私は UR 都市機構というところで造園職として勤めています。

いきなりですが、私は技術者になりたい、と思ってこの道を選んだわけではありません。『人と人とをつなげていきたい』、それを自分の好きな『緑』で実現したいと思ったからです。

そんな風に思うきっかけは、大学時代に就職に悩んでいた際に参加した、NPO 法人グランドワーク三島のインターンシップと女性技術士の会理事長木村了さんが勤める会社でのインターンシップでした。グランドワーク三島では川の清掃活動やまちの緑を活かすワークショップなど、緑の環境活動を通して全国の幅広い世代、多様な価値観、バックグラウンドを持った人たちとつながることで、視野が広がる楽しさを知りました。緑は人と人との触れ合いを演出してくれるものなのだと気づかされたのです。さらに木村さんの会社では実際に設計に携わらせていただき、造園設計の楽しさにも触れました。

そういった経緯があり、今の会社に出会いました。宣伝ではありませんが、UR の昔と今をつなげるまちづくりに惹かれたのです。昔のものをすべて壊して一から新しいものを作るのではなく、昔のいいものを現代に上手に取り入れ残す、または残せなくても現代のデザインや設計思想に受け継ぐ。そうすることで、昔からそこにいる人たちは今いる人たちに昔のことを教えてあげられるし会話のきっかけにもなる。そういうゆるいつながりがいいのです。昔と今だけでなく、人をもつなげられる緑って最高じゃないですか。たとえば公園に樹木や草花のうんちくをちりばめて受け売りでいいから人に話す種になったり、生き物がいたら○○がいるよって教えあったり、きれいな景色を見てきれいだね、って言い合ったり。それが心地いい。私たち造園職が演出する自然・空間は人と人をつなげる力があると思うのです。

弊社で行っているヤギ除草の視察の様子

技術はそういった自然・空間を演出するツールでしかありません。『人と人とをつなげたい』という私の想いは、どんな方法でもできることだと思います。その方法が緑、造園という手法なのであって目的ではありません。ですが私は緑が好きですし、緑には力があると思っているので、この分野の技術力を持ってして、この目標に向かっていきたいと思っています。これからも、単なるモノづくりに終始するのではなく、目標を持ってこの仕事に携わっていきたいと思います。

何度も言いますが、仕事は自分の目標を実現するツールでしかないと思っています。

若い皆さんには(自分も若いですけど笑)、いろんなもの、こと、人に触れていろんなことを感じて、自分がどうありたいか、何に一番ワクワクするかを常に考え将来の道を模索していってほしいと思います。私もまだまだなので、がんばります!!

ニュースレターについてのご意見・ご感想はこちらまで：info@pej-lady.org

2016 年第 3 号 通巻第 28 号 発行責任者：特定非営利活動法人 女性技術士の会 理事長 木村了